

将来都市構造改定の方向性について

■台東区の将来都市構造の改定の考え方（骨子案 p.22 参照）

■ 拠点		
拠点種別	拠点名（仮称）	改定のポイント
【広域総合拠点】 日本文化の魅力を世界に発信する国際的な文化交流発信拠点であると同時に、国際競争力強化に資する商業・業務機能の集積する拠点	○ 上野・御徒町広域総合拠点	⇒ 現行の「秋葉原駅周辺広域総合拠点」側へ拡大して一体的に拠点を育成する。
	○ 浅草広域総合拠点	⇒ かつば橋道具街も含めた一つの拠点とし、みどりの拠点（浅草寺周辺）及び水の拠点（吾妻橋周辺）を含めるように範囲を設定する。
【生活・文化拠点】（※新規に設定） 歴史、文化、みどりの資産と商店街、路地、坂などの特色を活かし、個性ある生活スタイルを支える拠点	○ 谷中生活・文化拠点 （以下、赤字は新規拠点）	⇒ 上野公園周辺や近隣区の拠点と連携してまちづくりを進める、生活・文化の拠点を新規に設定する。
【広域拠点】 広域総合拠点と連携を図りながら、首都圏を視野に入れた都市活動や賑わい、人びとの交流を図る拠点	○ 浅草橋・蔵前広域拠点	⇒ 範囲を南側へ延伸し、水辺（隅田川・神田川）を含み一体的に整備する。
	○ 北部地区広域拠点	⇒ 公共交通の利便性を強化し、地域全体の生活利便性の向上に資する拠点を新規に設定する。
【地域拠点】 地域住民の多様なニーズに対応し、日常生活を支えるために、既存の地域商業等の機能の集積、活性化を図り、地域の賑わいを形成する拠点	○ 鶯谷駅周辺地域拠点	⇒ 鉄道駅のポテンシャルを活かし、駅周辺に生活利便機能を集積させる拠点を新規に設定する。
	○ 新御徒町駅周辺地域拠点	⇒ 基本的に現行を踏襲するが、範囲は今後のまちづくりに合わせて再設定する。

■ 水とみどり（軸と拠点）※現行では地域別整備方針の一地域として扱っているが、全体方針として都市構造と関連する地域に振り分けて記載する。		
【みどりの拠点】 歴史・伝統、都市の中の自然（みどり）を活かし、人びとにうるおいとやすらぎを与える癒しの拠点	○ 上野公園周辺 ○ 浅草寺周辺	⇒ 「みどりの拠点」として位置づけ、設定範囲は継承する。
【水の拠点】 歴史・伝統、都市の中の自然（河川等）を活かし、人びとにうるおいとやすらぎを与える癒しの拠点	○ 吾妻橋周辺	⇒ 舟運を活かした拠点を位置づけ整備する。浅草広域総合拠点の範囲に含まれる。
【水とみどりの連携軸】 区内の拠点を水とみどりでつなぐとともに、舟運を活かした拠点を内包する	○ 隅田川及び神田川河川沿い	⇒ 河川を軸と捉え、一体的な整備を進める。（荒川区は「ふれあいと憩いの軸」、墨田区は「水と緑の基本軸」と位置付けていることから「拠点」ではなく「軸」とし整合を図る）

■ 軸		改定のポイント
【文化・観光連携軸】 広域総合拠点及び生活・文化拠点を一体的に結び機能連携を強化する軸		⇒ 上野・御徒町広域総合拠点から上野公園を抜け、谷中生活・文化拠点へ延伸する。また、隣接区拠点やスカイツリー周辺方面へ延伸する。
【広域連携軸】 鉄道による広域連携を軸として位置づけ、隣接拠点とその後背地のみならず、国内、海外からのつながりを意識した人・もの・ことの交流を担う。		⇒ 上野東京ラインやつくばエクスプレス等の鉄道による広域連携の表現を追加する。また、上野・御徒町広域総合拠点から「湯島・本郷方面」への軸を追加する。また、現行の「商業・業務軸」を含めた。
【拠点連携軸】 各拠点を結ぶ道路に位置づけ、そこに住む人びとの交流を促し、まちの歴史・伝統やみどりと水を感じる歩行の回廊を形成		⇒ 北部地区の新規拠点の設定と合わせて、拠点同士をつなぐ路線を新たに軸に追加。また、隣接区の拠点とも結ぶ。（例：文京区 の地域拠点）

